

2022年の振り返りと今後の戦い方

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)
追加型投信／国内／株式

2023年1月16日

- 日本ニューテクノロジー・オープンの2022年のリターン(分配金再投資基準価額ベース)は▲18.7%となり、暦年ベースでは過去3番目に下落率が大きく、TOPIX対比では設定来で最もマイナス格差の大きい年となりました。
- 当レポートでは、2022年のパフォーマンス苦戦の背景の分析と、運用担当者が今後どのようにして回復を図っているかと考えているかについて、お伝えいたします。

1. 2022年の振り返り

当ファンドの2022年のリターン(分配金再投資基準価額の騰落率)は、▲18.7%となりました。

当ファンド設定(2010年12月28日)来の各年のリターンを比べますと、2011年※の▲20.4%、2018年の▲19.7%に次いで、過去3番目に下落率の大きな年となりました。

2022年のTOPIXのリターンは配当込みで▲2.5%でしたので、当ファンドのリターンはTOPIXのリターンを16.3%下回りました。

1年間でTOPIXをこれほど下回った年は過去に例がなく、2022年はTOPIX対比でマイナス格差の最も大きな年となりました。

設定来2022年末までの約12年間のリターンは271.4%、年率換算で11.5%となりました。(図表1、2)

当ファンドは、テクノロジー株に焦点を当てた運用を行っているため、リターンのボラティリティ(変動性)が大きく、上昇幅や下落幅が大きくなる傾向があります。

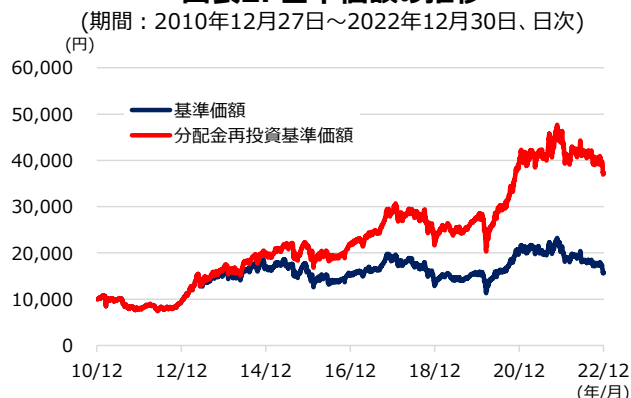
それでも2022年のTOPIX対比でのマイナス格差は過去に例を見ないものであり、当レポートでは、この背景を分析するとともに、今後どのようにして回復を図っているかについて運用担当者の考えをお伝えいたします。

図表1. 年別パフォーマンス推移

	ファンド	TOPIX	差
2011年	-20.4%	-17.5%	-2.9%
2012年	19.6%	20.9%	-1.2%
2013年	79.1%	54.4%	24.7%
2014年	16.6%	10.3%	6.3%
2015年	8.4%	12.1%	-3.7%
2016年	0.7%	0.3%	0.4%
2017年	32.3%	22.2%	10.0%
2018年	-19.7%	-16.0%	-3.8%
2019年	19.9%	18.1%	1.8%
2020年	46.0%	7.4%	38.6%
2021年	13.3%	12.7%	0.5%
2022年	-18.7%	-2.5%	-16.3%
設定来騰落率	271.4%	173.5%	97.9%
(年率換算)	11.5%	8.7%	2.8%

※ファンドは分配金再投資基準価額ベース、TOPIXは配当込みベースです。
※2011年のパフォーマンスは、設定日前営業日(2010年12月27日)から2011年末までのものです。
※設定来騰落率、年率換算は、設定日前日から2022年12月30日までのものです。

図表2. 基準価額の推移



※上記は、設定日前営業日を1万口当たりの当初設定元本としております。
※基準価額、分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後です。
※分配金再投資基準価額は、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆又は保証するものではありません。

(出所) 図表1～2は、社内データ、Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

背景① 厳しかった投資環境

当ファンドが投資対象としているテクノロジー株は広範囲にわたるため、それを網羅的にカバーする株価指数はありません。そこで、ある程度テクノロジー株の傾向をつかむために、東証17業種区分の電機・精密株指数、米国のナスダック総合指数、東証スタイルインデックスのTOPIX500グロース指数の3つのリターン状況を見てみます。

2022年に、電機・精密株指数はTOPIXを20.2%、ナスダック総合指数はS&P500種株価指数を14.4%、TOPIX500グロース指数はTOPIXを12.8%、それぞれ下回りました(図表3)。

いずれも、2011年以降では最大のマイナス格差となっています。これらのデータから、**日米ともに2022年はテクノロジー株にとって大きな逆風が吹いた年であった**と受け止めております。

なぜ、これほどの逆風になったのでしょうか。その背景としては、

①主要先進国が本格的な金融引き締めを開始し、金利が大きく上昇したことから(図表4)、テクノロジー株を含むグロース株全般に対する市場での株価評価が下がったこと*1、

②シリコンサイクルが下向きとなり(図表5)、半導体関連株を中心とするエレクトロニクス関連株に下落圧力が強まったこと、

が挙げられると考えております。

*1 金利上昇期には、PERが割高なグロース株式は株価の下落によりPERの水準調整が発生する傾向が見られます。

*2 半導体業界の好況と不況の循環。半導体産業では技術革新のスピードが早く、設備投資や在庫管理のタイミングの調整が難しいことが原因で発生します。

図表3. テクノロジー株式参考指数のリターン格差

	電機・精密株 指数	ナスダック 総合指数	TOPIX500 グロース指数
2011年	-7.5%	-2.9%	-1.3%
2012年	-12.4%	1.8%	-2.0%
2013年	-0.5%	7.8%	-2.3%
2014年	11.7%	1.1%	-1.1%
2015年	-10.1%	5.7%	-2.1%
2016年	3.9%	-3.0%	-3.3%
2017年	13.0%	7.9%	-0.8%
2018年	-5.4%	1.6%	0.2%
2019年	19.5%	5.3%	2.8%
2020年	18.5%	26.7%	11.4%
2021年	12.4%	-6.5%	-6.2%
2022年	-20.2%	-14.4%	-12.8%

※リターンは全てトータルリターンで計算。電機・精密株指数とTOPIX500グロース指数はTOPIXとのリターン差、ナスダック総合指数はS&P500種株価指数とのリターン差を表示。

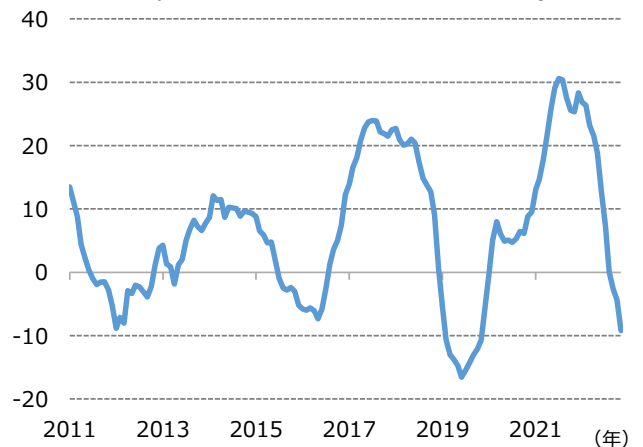
図表4. 米国10年国債利回り

(%) (期間：2011年1月3日～2022年12月30日、日次)



図表5. シリコンサイクル*2

(%) (期間：2011年1月～2022年11月、月次)



※世界半導体販売額(3カ月移動平均)の前年同月比伸び率を表示。

(出所) 図表3～5は、Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

背景② 投資行動について

投資環境が厳しかったことは事実ですが、それはあくまで環境要因です。**厳しい投資環境を乗り越えるために行った投資行動の多くで、期待した成果を上げることが出来ず、結果としてパフォーマンスにマイナスの影響があったことは否定できないと考えております。**

2022年は、テクノロジー株を巡る投資環境が厳しかったため、そのなかでパフォーマンスをあげるべく様々な取り組みを行いました。

このうち、

- ・1月半ばに実施したグロース株からバリュー株への入れ替え、
- ・出玉規制の実質緩和とスマート機の登場で久しぶりに市場が活性化しつつあるパチンコ・パチスロ関連株への投資、
- ・ロシアのウクライナ侵攻を受けた防衛関連株への投資などは、プラスの効果がありました。

しかしながら、

- ・6-8月の反発局面で株式組入比率を低めていたこと、
- ・ゲーム関連株、新興成長株、鉄道株などへの投資、
- ・9月から10月にかけての半導体関連株のリバウンドをリターンに結び付けられなかったこと、
- ・銘柄入れ替えのタイミングが悪かったことなど、

結果としてマイナスに影響した投資行動が多かったことは率直に認めなければなりません。もちろん全ての投資行動は、プラスの影響を目指して実施したのですが、結果が悪ければ、反省して、そこから教訓を学んで次に活かしていく、ということを不断に続けなければならないと考えております。

【注】

プラスに寄与した主な投資行動、マイナスに影響した主な投資行動として取り上げた事例は、当ファンドの運用担当者が一年間の投資行動を振り返って影響が大きかったと考えていることであり、運用者の主観が含まれています。また、ここに列挙した事項以外に重要な要因がなかったことを保証するものではありません。

図表8、9に記載したプラス寄与銘柄・マイナス影響銘柄は、野村総合研究所のT-STAR GXの計算結果から作成しており、運用者の主観を含んでおりません(分野区分を除く)。

図表6. プラスに寄与した主な投資行動

グロース株→バリュー株シフト (1月半ば)
パチンコ・パチスロ関連株への投資 (2月から)
防衛関連株の買付け (3月)
チタン株の買付け (5月)

図表7. マイナスに影響した主な投資行動

ゲーム関連株への投資 (5月)
低めの株式組入比率(6-8月)
新興成長株への投資
半導体関連株の戻りをとれなかった (10月)
鉄道株への投資 (10月)
入れ替えのタイミングの悪さ

図表8. 基準価額プラス寄与上位10銘柄

銘柄名	分野
1 円谷フィールズホールディングス	デジタル
2 大阪チタニウムテクノロジーズ	グリーン
3 三菱重工業	グリーン
4 第一三共	ヘルスケア
5 KDDI	デジタル
6 日本電信電話	デジタル
7 INPEX	グリーン
8 ロート製薬	ヘルスケア
9 武田薬品工業	ヘルスケア
10 フジクラ	デジタル

図表9. 基準価額マイナス影響上位10銘柄

銘柄名	分野
1 デクセリアルズ	デジタル
2 ソニーグループ	デジタル
3 ウエストホールディングス	グリーン
4 KADOKAWA	デジタル
5 キーエンス	デジタル
6 フューチャー	デジタル
7 野村総合研究所	デジタル
8 ANYCOLOR	デジタル
9 三井ハイテック	グリーン
10 イビデン	デジタル

(出所) 図表8~9は、社内データより岡三アセットマネジメント作成

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

2. 今後の投資環境見通し

2023年から2024年にかけては、①欧米の金融引き締めが継続され、景気や企業業績に下方圧力がかかる時期(現在と似た環境)を経て、②インフレが徐々に軟化し、金融政策が緩和されるとの期待が高まっていく局面へと移行していくと見ております。

局面①

一般に金融政策が実体経済に影響するまでには半年から一年程度のタイムラグがあると言われています。また、米国の政策金利が中立金利(景気を加速も減速もさせない金利水準)を越えてきたのは2022年9月の利上げであり、2022年末時点では金融引き締めはまだ本格的に景気を冷やしていないと考えています。

しかし、今後はこれまでとは異なり、景気に対するマイナス影響は徐々に強まり、景気や企業業績には加速度的に下方圧力がかかってくると思います。一方、米国のインフレはピークを過ぎており、足元では軟化していると見ています。ここから先は、インフレの軟化スピードと景気の悪化スピードとのスピード競争になると見ています。この間の株式市場は、底割れも上放れもできず、一定のレンジ内で上下すると想定しています。

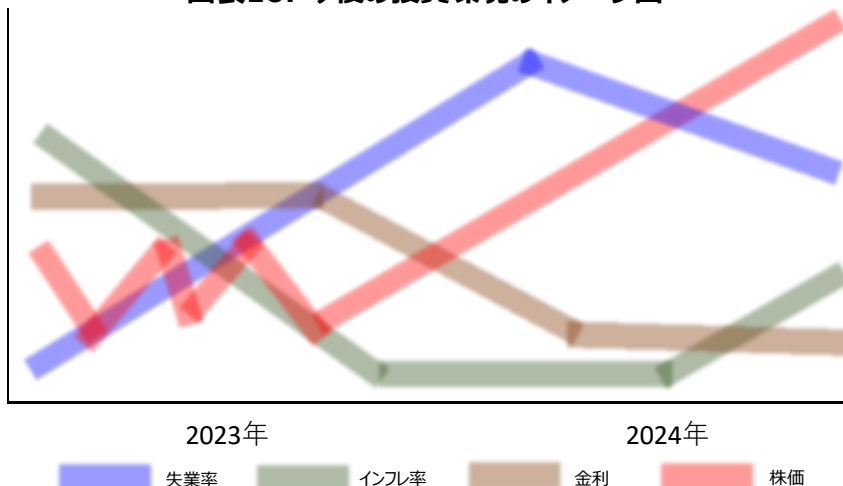
局面②

景気が悪化し、インフレが収まってくると、金融政策が緩和されるとの観測が高まっていくと思われれます。このような場合、金利が低下し、景気・企業業績の回復期待から株式市場は上昇基調に入ると考えられます。

どのタイミングで局面①から局面②に変わるのか？

少なくとも2023年の前半は局面①が続き、遅くとも2024年央時点では局面②になると想定しています。従いまして、方向性の転換は今年の年央から来年年央までの一年間のいずれかということになりますが、この間のいつになるかは、不確定要素が多く、現時点でははっきりしないとしか申し上げられません。おそらく、こうした方向性の転換は、具体的な転換点があるわけではなく、次第に局面②の様相が強くなり、振り返れば「すでに②の局面に入っていた」となることも十分考えられます。

図表10. 今後の投資環境のイメージ図



※失業率、インフレ率、金利は米国、株価は日米欧の株価をイメージして描画しています。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

3. 今後の投資戦略

前頁の局面①の間は、一言で言えば、守り重視の運用を強いられると考えています。景気の影響を受けにくい通信株や医薬品株といったディフェンシブ株を多く組み入れるほか、防衛関連株、パチンコ関連株など、景気以外の増益要因を持った銘柄を多く組み入れる考えです。

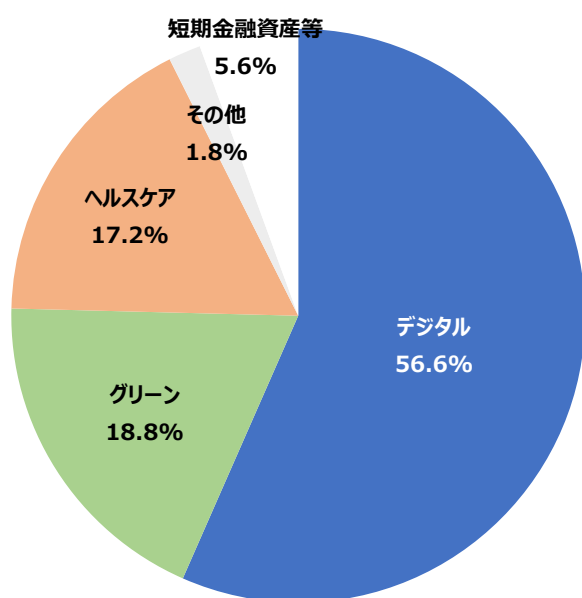
一方、金利上昇局面では評価が高まりにくいと考えられる新興成長株、景気悪化による需要減速が懸念される半導体関連株などには慎重姿勢で臨むこととし、限定的な組入れとする考えです。

また①の期間は、一貫した方向感が出にくいと考えており、個別株においても、株価の短期的な変動が激しくなる傾向が強いのと思われますので、株価の上昇した銘柄の利益確定や株価の下落した銘柄の押し目買いといった機動的な売買により、利益を積み上げていくことも目指したいと考えています。

局面②になりますと、株式市場は金利低下・景気回復を織り込む展開になると考えられますので、金利低下により評価が高まり易い新興成長株、半導体や電子部品などの景気敏感株への投資を増やしていくことを想定しています。上昇局面が顕著になると、「押し目待ちに押し目無し」といった状況になりやすいため、個別株の売買においても局面①とは対応を変えなければならないと考えています。

テクノロジー株にフォーカスした投資が、長期的には高いリターンを生むということについては、いささかの疑問も持っておりません。一方で、上昇や下落のボラティリティが大きいということは、当ファンドの特徴です。2022年は厳しい投資環境と一連の投資行動によって20%近いマイナスのリターンになりましたが、引き続きテクノロジー株にフォーカスした運用を続けることで、パフォーマンスを回復させ、基準価額の最高値更新を目指して運用していく所存です。

図表11. 分野別構成比
(2022年12月末)



※当ファンドの純資産総額に対する比率です。
※比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
※個別銘柄の各分野への区分は当ファンドの運用者が独自の視点で行っているものであり、客観的なデータ・基準に基づくものではありません。

図表12. 各分野の上位組入れ銘柄
(2022年12月末)

デジタル

順位	銘柄名
1	日本電信電話
2	フジクラ
3	ソニーグループ
4	円谷フィールズホールディングス
5	SANKYO

グリーン

順位	銘柄名
1	三菱重工業
2	IHI
3	電源開発
4	大阪チタニウムテクノロジーズ
5	石油資源開発

ヘルスケア

順位	銘柄名
1	第一三共
2	ロート製薬
3	日油
4	オリンパス
5	テルモ

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)
 追加型投信/国内/株式

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)は、格付投資情報センターの選定による「R&Iファンド大賞2022」で下記のように受賞いたしました。当ファンドをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

国内株式グロースカテゴリー

投資信託部門:	最優秀ファンド賞
投資信託10年部門:	最優秀ファンド賞

 R & I ファンド大賞 2022
 投資信託部門
 『最優秀ファンド賞』

 R & I ファンド大賞 2022
 投資信託10年部門
 『最優秀ファンド賞』


「R&Iファンド大賞」は、格付投資情報センター(R & I)が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

運用状況

(作成基準日: 2022年12月30日)

基準価額	15,669円
純資産総額	86.0億円
株式組入比率	94.4%
組入銘柄数	43銘柄

※基準価額は1万口当たりです。

騰落率	6か月					1年	3年	5年	設定来
	▲11.0%	▲18.7%	34.4%	29.3%	271.4%	▲2.5%	18.1%	17.2%	173.5%
ファンド									
TOPIX(配当込み)	2.4%	▲2.5%	18.1%	17.2%	173.5%				

※ファンドの数値は、分配金再投資基準価額の騰落率で、設定来騰落率は1万口当たりの当初設定元本との比較です。

※TOPIX(配当込み)の設定来騰落率は、設定日前営業日の終値との比較です。

※Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

組入上位10業種		
1	電気機器	24.4%
2	機械	20.7%
3	医薬品	8.9%
4	精密機器	8.3%
5	非鉄金属	6.3%
6	情報・通信業	5.9%
7	化学	5.2%
8	卸売業	3.5%
9	不動産業	3.4%
10	電気・ガス業	2.4%

※各比率は当ファンドの純資産総額に対する比率です。

組入上位20銘柄					
1	三菱重工業	4.9%	11	グローリー	2.8%
2	日本電信電話	4.4%	12	T D K	2.5%
3	フジクラ	4.1%	13	オリンパス	2.5%
4	第一三共	3.9%	14	電源開発	2.4%
5	ロート製薬	3.8%	15	キーエンス	2.4%
6	日油	3.7%	16	ダイコク電機	2.3%
7	ソニーグループ	3.5%	17	平和	2.3%
8	円谷フィールズホールディングス	3.5%	18	京セラ	2.3%
9	I H I	3.1%	19	大阪チタニウムテクノロジーズ	2.3%
10	S A N K Y O	3.1%	20	石油資源開発	2.2%

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社で作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)に関する留意事項
【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。
- ※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
 - 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
 - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
 - 取引所における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.54%（税抜1.40%）
 - その他費用・手数料
 - 監査費用：純資産総額×年率0.011%（税抜0.01%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を信託財産でご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
あかつき証券株式会社	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
auカブコム証券株式会社	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
JPアセット証券株式会社	関東財務局長(金商)第2410号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○			
松井証券株式会社	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
(登録金融機関)					
PayPay銀行株式会社	関東財務局長(登金)第624号	○		○	

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

<本資料に関するお問合わせ先>

フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)